

バスケットボール選手のポジション別による性格特性の研究

A study of the personality and game position of basketball players

1K04B225-1

谷内 花恵

指導教員

主査 内田直先生

副査 倉石平先生

緒言

私は12年間、バスケットボールを通して様々な経験をしてきた。その経験からチームワークの大切さ、組織における個々の役割、継続する努力、など多くのことを学んだ。そして沢山の仲間と出会い、切磋琢磨し、時には衝突することもあったが、共に励まし合いながら過ごしてきた。今思えば様々なことが早々と過ぎ去って行ったが、多くのことを学び、そこで一番大切なことを得ることができた。それは、互いを認め合い“自尊心”を持つことだった。様々な経験と、多くの人々との出会いにより、私自身が成長できたと考えている。

今年は学生でバスケットボールをプレーすることが最後で、私のバスケットボール人生の中でも区切りの年である。12年間のバスケットボール人生の中で、経験したこと、感じたことをひとつの形として残して行きたいと考えている。

研究動機

バスケットボールは、5人対5人で戦うスポーツである。そこでは、ポジションの違う5人が各役割を持つ。役割はその選手が持っている能力、身体的特徴、から分けられることが多い。

ポジションを決める際にもコーチらはその役割に基づいて、選手の持つ運動能力や身体的特徴を参考にポジションを決めることが多いがガードポジションは“コート上の司令塔”と呼ばれるように、私の経験の中でも、リーダーシップがあり、冷静な判断ができる選手が多くいた。そこで、個々の能力、身体的特徴の他に、性格についての特性があるのではないかと感じ、ポジションごとの性格の特徴があるのかを調査することにした。

方法

早稲田大学バスケットボール女子部 19 名(20.2 ± 1.2 歳、競技歴 10.9 ± 1.4 年)、早稲田大学競走部女子選手 17 名(19.9 ± 1.0 歳、競技歴 7.8 歳 ± 1.6 年)を対象に行った。

調査の方法は、2007 年 10 月に、Y-G 性格検

査(矢田部ギルフォード性格検査)を使用し調査を行った。また、バスケットボール選手に関してはキャプテン経験者を調査した。

結果

5 種類の類型判定に分けた結果、チーム全体では B 型の不安定積極型が 9 名で一番多かった。次に A 型(平均型)、D 型(安定積極型)が 4 名、C 型(安定消極型)、E 型(不安定消極型)が 1 名ずつで一番少なかった。C 型、E 型のように、消極的な性格特性の人数が少なかった。

ポジション別では、ガードポジションは、B 型が 4 名で一番多く次に、A 型、C 型、D 型が 1 名であった。また、E 型はひとりもいなかった。フォワードポジションでも、B 型が多く、4 名で、次に A 型 2 名、D 型が 1 名であった。C 型と E 型はいなかった。センターポジションでは、D 型が 2 名、その他 A 型、B 型、E 型が 1 名ずつで、C 型はひとりもいなかった。

考察

チーム全体では B 型(不安定積極型)が多かった。B 型の特徴として、情緒不安定、社会的不適応で活動的・外向的があげられる。ポジション別に分けても、ガードポジション、フォワードポジションで同じ B 型の結果が出た。ガードポジションがフォワードポジションと同じ結果になったことは、ガードポジションの選手がフォワードポジションの経験もある選手が多いからであると考えた。また、フォワードポジションとセンターポジションはポジションの特性と一致している部分もあった。フォワードポジションでは外向的で積極的な特徴が含まれる、性格特性の結果となり、センターポジションでは情緒的にも安定している性格特性であった。各ポジションの結果は、そのポジションの役割や特徴に関連している性格特性が表れた。